
お仕事が無いのでしたら殺し屋などいかがでしょう？

都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お仕事が無いのでしたら殺し屋などいかがでしょう？

【Nコード】

N5209Z

【作者名】

都

【あらすじ】

皆さん（ってそんな大勢いないと思いますが）、友達と競争したりしますよね！！成績とか体力とか：

これは、一風変わった競争を繰り広げるおばかな中三春休み剣道部員のお話です。

因みにこういうのに投稿するのは初めてなのでぐずぐずになる可能性大です↑

1 押しかけ美青年

奥ゆかしい日本庭園を臨む茶室。そこで、一人の美青年と耄碌じじいがなごやかに会話していた。

「この中の一人がお前の初めての競争相手となる。好きな相手を選ぶがよい。」

いるはずの無い女性の声が横檜をいれる。

「アタイはこいつがおすすめだねえ。どうせアタイがつくことになるんだろう？こいつはなんだかいい匂いだったからねえ。」

「ぜったいたいダメ！わたくしはこの女が喜ばなさそうな…こやつなんてどうでしょう？」

なんかもう本音丸出しである。ちなみに指差したのはいかにも個性的な匂いを放っているようなホームレスの男。

「まあ落ち着けよ局。どうせ向こうは素人だ。お前と望月の勝負もお前の勝ちだろうよ。」

局と呼ばれた女性「初芽局は、ぽっと頬を染める。わかり易いなあ」と耄碌じじい。

「じゃあアタイはさっそくこいつ…ええつと」新月都？のどこへ行って来るよ。」

「までよ望月。こいつは俺の知り合いなんだ。ついていくよ。」

「待ってください。わたくしも：どんな奴が相手なのか気になりますから。」

こうして、毫碌じじいを気に留めることなく、三人は家を出た――

「という訳なんだよ。君は晴れて採用。おめでとう。」

「：何の話？」

正直、僕には理解不能だ。大体こいつを殴りたいと思ったことはあっても、採用されたいと思ったことは一度もない。

「だ・か・らっ、俺の競争相手だよ。お前、3日前の23時36分に求人募集に応募しただろ？」

やっと言ってるのかわかった。僕は確かに春休みの暇つぶしにと怪しいサイトで応募した気がする。確か、サイト名は『お仕事が無いのでしたら殺し屋などいかがでしょう？』。あほみたいだったからよく覚えている。ただ、僕の暇つぶしとこいつと何の関係があるのか：分単位で把握してるなんて変態かよ。警察訴えるぞ。しかも前半の与太話はあるのか？つかその謎の女性ってだれだよ。早く出せ。言いたいことは山ほどあるが、僕は一言に収めることに成功した。

「もしかして、美男子ってお前？」

：なぜか、正面からは羞恥を、横からは殺気を感じた気がした。相変わらず、ナチュラルにナルシストな奴だ。ついでに、感情表現も

豊かになつたらしい。

僕―新月都はため息を一つついて、猛烈な勢いで言い訳しはじめた
情けない押しかけ美青年を家に入れてやった。だって寒いじゃない
か。

1 押しかけ美青年（後書き）

えっと・・・なんかよく分かんなくてごめんなさい。

私もよくわかってません↑

まあ、だらだら続く予定なので設定とかも付け加えられる・・・はずです↑

2 お茶で一服いたしましょう

「で、美少年である君が何のためにうちにいらしゃったのですか？」

「うう…もーやめてくれ。続きをしゃべらせてくれよお。」

「嫌。茶でも飲んで反省してろ。」

と言う訳で、美少年こと初芽忍がお茶を飲んで反省してる間に今置かれていた状況について整理してみようと思う。

- ・今は2012年の3月。僕は中3の春休みだ。
- ・この無意識ナルシス野郎は初芽忍。僕の剣道のライバルだ。
- ・そして僕はつい先日求人サイトに応募した。
- ・それを関係ないはずの忍が知っていた。分単位で。

||忍はストーカー。

完璧だ。警察に通報しよう。

「ピッポッパツ・・・とうるるる

「やめろおおお！…今俺んちに電話しようとしただろ。頼むからそれだけはやめてくれ。」

なんだこいつ。自意識過剰も甚だしい。僕は警察に通報しようとしただけなのに。でも面白いくらいビビッてるのでほっておく事にする。

「俺はお前じゃないと勝つ自信がないんだ…じゃなかったお前が大好きなんだよ！！だから俺の競争相手になってほしくて。だって

お前以外の応募者全員つわも…むさくるしいしさ!」

言いたいことは大体わかった。つまり僕が弱いと言いたいんだな。それに大好きとか気持ち悪っ。つか絶対馬鹿にしてんだろ。

「その勝負、受けてたってやるう!」

「サンキュ都。今からルールを説明する。よく聞いとけよ?」

そのルールは…まあ僕の想像の軽く斜め上どころかももう突き抜けて宇宙いっちゃてる感じの内容だった。

3 勝負事は公平にいたしましょう（前書き）

さっきまで家族にケチつけられまくりながらも、のほほんと年賀状作ってました。

でもこのお話はそうほんわかとは進まないようです。誰でしょうねこんな危ない話作ってるのは↑

3 勝負事は公平にいたしましょう

「あのな、俺実は殺し屋の息子なんだ。今まで親父について行って死体は何度も見てるし、家では親父や執事なんかから一発でのしとめ方も教わってる。で、今回晴れて独り立ちするために応募者のうち一人と勝負することになった。それで相手——つまりお前が勝ったら俺はまた一年間下積みで、お前は親父の下で特別レッスンを受けられる。逆に俺が勝ったら俺は晴れて業界デビューというわけだ。」

「…ごめんちょっと飲み込めない。確かにそういった業界があるのはテレビで知ってたけど、まさか中学入ってからずっと一緒だった忍がその息子だったなんて……。まあ父親が何やってんのか全然教えてくれないし、家はやけにでかいし言われれば納得できないこともないんだけど。後、執事いるとか初めて聞いた。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5209z/>

お仕事が無いのでしたら殺し屋などいかがでしょう？

2011年12月24日00時59分発行